

## 協働事業自己チェックリスト集計表（熊野古道協働プロジェクト）

項目	小項目	NPOミーツ	地域振興部東紀州活性化・地域特定P
§ 視点1 事業実施前に話し合いが十分になされていますか。	視点1－1 ニーズの把握	はい	はい
	視点1－2 ニーズの共有	はい	はい
	特記すること	まちの潜在的なシーズを見つけ、ニーズを創りだす事業と認識しています。	昨年度実施した当事業において、まちづくりカフェを中心とした地域コミュニティづくりを行い、ニーズがあることを確認しました。今年度は、その実績をもとに、昨年とは違った切り口での地域コミュニティづくりを目指して事業に取り組んでいます。
§ 視点2 事業の目的や事業に関わる意義を確認していますか。	視点2－1 事業の公共性と行政関与の妥当性		
	<input type="radio"/> 広く不特定多数の利益になるものですか。	はい	はい
	<input type="radio"/> 地域課題の解決や社会変革に役立つものですか。	はい	はい
	<input type="radio"/> 事業の内容と同じ取組みが対象とする地域で既に行われているか調査しましたか。	はい	はい
	視点2－2 協働の妥当性		
§ 視点3 それぞれの役割が明確に整理されていますか	<input type="radio"/> 行おうとしている事業は、行政と市民との協働でなければできない、あるいは協働で行うことにより、効果が期待できる事業ですか。	はい	はい
	特記すること	県とミーツの間での認識はほぼ共有できているが、カウンターパートへの認知に時間がかかった。	地域づくりは、地域の人たちが主体的に取り組んでいかなければなりません。県としては、地域が潜在的に持っている人的及び物的資源を活かすきっかけづくりを行っていきます。委託者であるNPOミーツ（岡山県）のまちづくりの手法やノウハウを地元の担い手に引き継ぎ、継続的に地域コミュニティづくりをすすめていくことが事業の目的です。
	「新しい時代の公」では行政と民間が公共領域を担いあうことが示されていますが、話し合いの場で次のことを話し合って役割などを明確にしていますか。		
	<input type="radio"/> 役割分担	はい	はい
	<input type="radio"/> 責任分担	?	?
それらの役割が明確に整理されていますか	<input type="radio"/> 情報共有	?	はい
	<input type="radio"/> 問題発生時の体制	?	はい
	特記すること	関係当事者多いので調整が難しい。	当事業においては、県及び受託者であるNPOミーツ、地元の担い手、大家さんと月1回の定例会の他に、メーリングリストを作成し、情報交換をしながら事業をすすめています。さらに、現地（尾鷲）出の動きは、ブログなどで公開するなどして情報を共有しています。

§ 視点4 事業を計画的に進めていますか。	事業を進めていく計画に、次のような内容を反映していますか。		
	<input type="radio"/> 事業の目的	はい	はい
	<input type="radio"/> 地域ビジョンと事業の方向性	はい	はい
	<input type="radio"/> 実施計画と収支計画	はい	はい
	<input type="radio"/> 実際にかかる費用の分担と予算管理	はい	はい
	<input type="radio"/> スケジュール管理と進捗状況	?	?
	<input type="radio"/> 事業の進捗を客観的に判断する具体的な成果指標	?	?
	<input type="radio"/> 成果物の帰属	はい	はい
	<input type="radio"/> 事業の完了時期	はい	はい
	<input type="radio"/> 事業終了後の方向性の共有	はい	はい
特記すること		<p>事業の目的は、業務委託仕様書に明記しています。また、当事業は、「熊野古道アクションプログラム」に基づいて実施している事業です。費用については、主に人件費及び拠点維持のための経費であり、あとに資産として残るものについては所有者に負担してもらいます。事業期間は今年度限りとし、事業終了後も継続してやっていける仕組みづくりを常に意識しながら事業をすすめています。</p>	
§ 視点5 参加・参画の体制づくりは進んでいますか。	視点5－1 当事者性	はい	はい
	視点5－2 対話（コミュニケーション）	はい	はい
	視点5－3 意思決定	はい	はい
	視点5－4 事業実施体制 以下のことについて話し合ったとおり実施できていますか。		
	<input type="radio"/> 役割分担	はい	はい
	<input type="radio"/> 責任分担	?	はい
	<input type="radio"/> 情報共有	?	はい
	<input type="radio"/> 問題発生時の体制	?	はい
	特記すること	関係当事者多いので調整が難しい。	イベントやワークショップを通じて、新たな仲間づくりを行っています。現地の担い手については、隨時打ち合わせを行っている他、全体では視点3のとおり情報を共有しています。
	事業企画段階で欠けていた視点や今後必要とされる仕組み、制度等はなんでしょうか。	トライアンドエラーを許容し、ワーキングプログレスを可能にする仕組みと制度が必要。	熊野古道協働プロジェクトは、事業終了後は、民間側で自立して継続していくことを前提に事業をすすめていますが、事業終了後の県の関わり方やサポートの仕組みについて検討する必要があると思います。